

14独評第37号  
平成14年10月22日

独立行政法人農業環境技術研究所  
理事長 陽 捷行 殿

独立行政法人評価委員会  
委員長 松本 聰 印

独立行政法人農業環境技術研究所の平成13事業年度における業務  
実績の評価結果について

このことについて、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第32  
条第3項の規定に基づき、別紙のとおり業務実績の評価結果を通知する。

## 独立行政法人農業環境技術研究所の平成13年度に係る業務の実績に関する評価結果

### 農林水産省独立行政法人評価委員会農業技術分科会

#### 1 総合評価

##### (1) 評価ランク A

##### (2) 評価に至った理由

「業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、「国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画」及び「その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項」すべてについて、中期計画の達成に向けて順調に進捗しており、全体として業務は順調に進捗していると判断し、Aと評価した。

##### (3) 総合所見

独立行政法人農業環境技術研究所は、農業と環境に関する問題解決のため、地球環境、化学環境、生物環境の観点から基礎的研究を行うことが求められている。このような観点から、平成13年度の業務の実績について調査・分析し、評価した結果は以下のとおりである。

主要な業務である研究開発については、中期計画の達成に向けて全体として順調に進捗している。長期的に取り組むべきテーマが多い中で、着実に論文等の成果があがっている。なお、環境研究という広範な研究領域の中で、農業環境研究として顕著な成果をあげるよう研究の重点化に取り組む必要がある。

管理・運営については、中期計画の達成に向けて全体として順調に進捗している。なお、知的所有権取得への支援や競争的資金の獲得について、取り組みの強化が必要である。

#### 2 各大項目ごとの評価

業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

##### 『1 評価・点検の実施』

研究課題評価及び機関運営の評価については、外部有識者を活用したシステムを作って実施されているなど、業務は順調に進捗している。

なお、研究業績評価の結果を処遇と研究資源の配分に反映するシステムは未整備であり、今後取り組む必要がある。

##### 『2 研究資源の効率的利用』

業務は順調に進捗している。

なお、14年度以降、官民を含めた多様な競争的資金の獲得への取り組みを強化する必要がある。

##### 『3 研究支援の効率化及び充実・高度化』

業務は順調に進捗している。

なお、平成14年度以降、特許等の知的所有権取得のための支援について、取り組みを強化する必要がある。

##### 『4 連携、協力の推進』

農林水産省の環境関係研究機関での協力体制の強化のため連絡会を設立し、研究会を開催するなど、業務は順調に進捗している。なお、平成14年度以降、人的交流の促進を図る必要がある。

『 5 管理事務業務の効率化』

事務処理の電算化等による管理事務業務の効率化がやや不十分であり、業務の進捗がやや遅れている。平成14年度以降、なお一層の取り組みが必要である。

『 6 職員の資質向上』

業務は順調に進捗している。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

『 1 試験及び研究並びに調査』

「 - 1 - A 農業生態系の持つ自然循環機能に基づいた食料と環境の安全性の確保」については、業務は概ね順調に進捗している。「 - 1 - A - 1 ) 環境負荷物質の動態解明と制御技術の開発」については、ダイオキシン類のイネ等による吸収、移行に関する研究において、玄米に移行するダイオキシン類濃度が極めて低いことを確認した実績は、評価できる。ただし、全般に論文等の成果が少ないため、平成14年度以降取り組みの強化が必要である。

「 - 1 - B 地球規模での環境変化と農業生態系との相互作用の解明」については、業務は順調に進捗している。農地の利用形態と温室効果ガスとの関係解明研究では、間断灌水がメタン発生軽減に重要であるが、他方亜酸化窒素の発生を誘引することを明らかにした実績は、今後のメタン発生への対策技術における問題点を明らかにしたという点で評価できる。

「 - 1 - C 生態学・環境科学研究に係る基礎的・基盤的研究」については、論文が順調に出ているなど、業務は順調に進捗している。

『 2 専門研究分野を活かした社会貢献』

昆虫や微生物の同定、O E C Dの国際会議への職員派遣など、業務は順調に進捗している。なお、今後、国際的な研究活動における水準の向上へ取り組む必要がある。

『 3 成果の公表、普及の促進』

業務は順調に進捗している

なお、平成 14 年度以降、普及に移しうる成果を他機関に利用してもらうよう努める必要がある。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

予算（人件費の見積りを含む。） 収支計画及び資金計画

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

実績報告から、経費節減、自己収入の増加、資金の柔軟な配分を通じて、主要な業務である研究開発を通じた国民へのサービスの向上に努めていこうとする姿勢が読みとられ、かつ財務関係資料においてもそれが表現されていた。

自己収入増加に関する取り組みで予算未達成であり、顕著な成果は認められなかったものの、経費節減と資金の配分に関する取り組みについては、経費全体で節減し、かつ研究活動に関する業務経費に資金を配分している。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

『1 施設及び設備に関する計画』

業務は順調に進捗している。

『2 人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）』

業務は順調に進捗している。

なお、任期付任用による採用を進める必要がある。

これらを総合的に勘案し、Aと評価した。

（参考）本評価において用いた評価ランクは以下の3段階である。

A：計画に対して業務が順調に進捗している

B：計画に対して業務の進捗がやや遅れている

C：計画に対して業務の進捗が遅れている